

鐔木家資料について

この468点に及ぶ文書群は、平成5年の春当館へ寄贈されたものである。

鐔木家は、元禄2年初代藤太夫が内藤公に召し出されて以来、維新による廃藩に至るまで約180年間、8代にわたって高遠藩仕として勤仕し、家禄は、ほぼ100石～150石、代々御武具奉行、御金奉行、御使番、郡代、大目付、御物頭、御用役等、藩の要職を歴任した上士の家柄である。

これらの文書の種類は多岐に涉っているが、何といっても中心は勤仕に関するたくさんの留書・覚書類である。特に幕末に書き残された多くの文書の中には、二度に及ぶ長州征伐に藩主に従って兵を率いて大坂に出陣し、将軍家茂が京都で卒するや、その尊骸を守って、共に江戸へ引き上げた際の留書、また、その後は旧式の兵を急遽西洋流に調練し直し、戊申の戦役には官軍として越後から会津へと転戦した日記等、大動乱期における小藩の苦衷を忍ばせる文書類は、興味深いところである。

鐔木家は、どちらかと言えば武人の家筋であつたらしく、たくさんの武術・兵法に関する伝授書の類も多く、その方面の研究者にとっては、興味ある資料と思われる。

鐔木家の私的文書としては、家系書・親類書・勤仕録・奉書切紙等の類、そして多くの私信、子供の誕生やその名付け等の記録があり、珍しい明治期の海外渡航証（パスポート）等も見つかった。また、数々の書や、絵巻風に描かれた行列図、その他数点の絵等も含まれている

これら多くの文書は、いずれも毛筆ながら細かく、丹念に書かれた物が多く、鐔木家代々の人達の真面目で几帳面な勤めぶりを偲ばせる。この先人達が、私共に書き残された貴重な文書を大切に保存し、一つ一つを丹念に究明し、江戸期の高遠藩の姿を知る手がかりにして行きたいものである。

平成5年7月
高遠町図書館